

令和 2 年 5 月 21 日現在

機関番号：33918

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K20826

研究課題名（和文）女性アルコール依存症者の家族を支援する相談体制及びニーズの体系化

研究課題名（英文）Counseling system and systemization of needs to support families of women with alcoholism

研究代表者

羽田 有紀（Hada, Yuki）

日本福祉大学・看護学部・助教

研究者番号：10347429

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、女性アルコール依存症者の家族に焦点をあて、家族を支援する相談体制の実践内容とニーズを体系化することを目的とし、女性アルコール依存症者の家族に対して、現在家族相談を実践している専門職から相談体制の実践内容とニーズについて調査を行った。その結果、女性アルコール依存症家族に対して、より質の高い相談体制を確立するためには、当事者を交えたより個別性に応じた家族支援が重要であり、家族間のコミュニケーションを改善するような働きかけが必要であると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

女性アルコール依存症者の家族に焦点を当てた相談体制の整備が今後必要であると考えられる。本研究では、家族支援の重要性は強調されたものの、家族のニーズ内容を多角的に把握するにはさらなる調査が必要である。女性アルコール依存症者の家族に対する精神的健康を支援する相談体制のニーズを体系化することを最終的なゴールとし、今後も引き続き調査を実施していく。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to focus on the families of women with alcoholism and to systematize the practical contents and needs of a consultation system that supports families. We conducted a survey on the practical contents and needs of the consultation system from professionals who practice. As a result, in order to establish a higher-quality counseling system for female alcoholic families, it is important to provide more personalized family support with the parties involved, and to improve communication between families. It was considered necessary to work.

研究分野：高齢看護学

キーワード：アルコール依存症 家族支援 精神的健康 相談体制 女性アルコール依存症 家族 ニーズ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アルコール健康障害対策基本法が平成 26 年に施行され、社会的にもアルコール依存症に関連する問題に関心が高くなっている。現在、アルコール依存症に対する再発予防、進行予防、発生予防という視点での取り組みが進められている。

昨今特に、女性アルコール依存症者の増加が社会問題となっている。2009 年に女性アルコール依存症患者数を把握した実態調査では、過去 10 年間で新規女性アルコール依存症患者数が 53% 増となっており、30 歳代を中心とする女性アルコール依存症患者の増加が著しいとされている。わが国におけるアルコール依存症治療は、男性のアルコール依存症者中心の医療であることから、女性の治療及び福祉的支援を行う機関が限られ、女性の特色を考慮した女性アルコール依存症治療が十分とは言い難い現状がある。そのため、女性アルコール依存症者に対する支援を検討していくことが急務である。

女性アルコール依存症者の特徴として、比較的短期の飲酒歴と少量の飲酒量でも急速にアルコール依存症となってしまう危険があり、男性以上に生活の破綻や生命の危機につながりやすい。また、感情障害などの精神症状を呈しやすく、自殺の危険が男性よりも高いと言われている。女性の場合、男性に比べて重篤になりやすい傾向がありながらも、女性のアルコール依存症に対する社会的スティグマは、男性以上に強く、女性が医療につながりにくい状況があり課題も大きい。さらに、女性アルコール依存症者の場合、家庭生活や家族への影響が大きい。依存症に伴う飲酒欲求や離脱症状に関連したドメスティックバイオレンスなどの家庭問題、家庭で担う育児や家事などの役割遂行が困難になる苦痛、家族を配慮した治療への参加しづらさ等が挙げられ、家族機能の悪化、家庭生活上の問題がもたらされる。そして、女性アルコール依存症者の家族も、本人同様に、苦悩している状況が見受けられる。アルコールに関する問題の家族への影響として、配偶者への暴力、子どもへの虐待、家庭崩壊、世代連鎖等といった深刻な課題が挙げられ、現在、特に世代連鎖をくい止める必要性が高まっている。

そのような家族への深刻な影響がある中で、家族の精神的健康は保たれにくい状況がある。我々が、科学研究費若手研究(B)25862234 の補助の下、アルコール依存症者とその配偶者の精神的健康についての調査を実施したところ、アルコール依存症の配偶者は、一般住民より低精神的健康群の割合が高いことが明らかとなった。そして、アルコール依存症者と配偶者の精神的健康は相互に関連することが分かった。その他でも、全国のアルコール・薬物問題の援助機関や家族会につながる家族を対象に行われた研究報告では、家族のストレス状況が深刻である結果を示している。そして、その家族の深刻なストレス状況に対して、相談システムが機能していない状況があることを示唆している。そのため、今後の家族支援の課題として、家族の精神的健康に関する支援を検討することが急務であり、その支援として家族の相談ニーズに合わせた相談窓口の充実、相談体制の確立が必要であると考えた。アルコール依存症の家族への援助は、保健所、精神保健福祉センター、医療機関などが相談に携わっているが、継続して関与しているのは断酒会や家族会などの自助組織である。実際、先行研究では、自助グループに通い続けることで、家族のストレス状況が有意に改善したとの報告もある。しかし、家族会に参加される家族は当事者が男性である場合が多く、女性のアルコール依存症者の家族が自助グループに繋がりが続けることは困難であると考えられる。アルコール依存症者の家族に対する支援の中でも、特に女性アルコール依存症者の家族に焦点を当てた相談体制の整備が今後必要であると考えられる。

アルコール依存症の家族は、当事者の飲酒行動の理解と対応、当事者とのコミュニケーションの取り方に苦悩しており、その状況が精神的健康に影響を与えると推測されるが、現在、家族相談に関する実践内容について、また家族が自分の精神的健康の維持のためにどのような相談体制についてニーズがあるのか把握されているとはいえない。アルコール依存症家族に対して、より質の高い相談体制を確立するためには、家族のニーズにあわせた相談体制の構成因子を明確にする必要があり、現在の実践内容の効果と課題、そして家族のニーズ内容を多角的に把握することが必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、女性アルコール依存症者の家族に焦点をあて、家族を支援する相談体制の実践内容とニーズを体系化することを目的とする。

3. 研究の方法

女性アルコール依存症者の家族に対して、現在家族相談を実践している専門職から相談体制の実践内容とニーズについて調査する。

1) 研究参加者：現在先駆的に家族相談を実践しているアルコール依存症専門治療施設の専門職（医師、看護師、保健師、作業療法士、精神保健福祉士）

2) 調査の手続き：

アルコール依存症専門治療施設において、訪問家族支援の支援方法に関する講演を実施し、その講演の参加者から家族支援のニーズについて自由記述による調査を行った。

4. 研究成果

講演への参加者 30 名から回答が得られた。参加者の内訳は、看護師 18 名、医師 3 名、臨床心理士 2 名、作業療法士 4 名、精神保健福祉士 1 名、保健師 2 名であった。

女性アルコール依存症者の家族に対する支援方法のニーズとして、以下の内容が抽出できた。

- ・家族支援とは、とても重要なことである。
- ・家族を家族皆で支えることの必要性。

- ・ 家族間のコミュニケーションが大事であり、家族ひとりひとりが何を考えているかを理解し、週に1回でもミーティングすることも大切。
- ・ 患者に対してマイナスな感情を持っていることが多いため、肯定的な話し合いができる場を持つてるといことはとても良いことである。
- ・ 1つの家族に時間をかけることがなかなか難しいが、しっかりと家族に関わることができたら、患者が変わることがあることを信じる。
- ・ 家族の行動が変われば患者も変わる。環境を整えば病状の悪化をふせぎ、コントロールができる。
- ・ 患者だけにアプローチをするのではなく、家族にアプローチすることは大変効果的であり、他にもたくさんの効果（他の家族の社会性が上がって、良いことがおこり、みんなが幸せになり、家族が円満になる等）が得られる。
- ・ 患者本人だけでなく、家族全体での支援が必要。
- ・ 関わり方に困っている家族は多い。

以上の内容から、女性アルコール依存症の家族に対して、より質の高い相談体制を確立するためには、患者を交えたより個別性に応じた家族支援が重要であると考えられる。また、家族間のコミュニケーションを改善するような働きかけが必要であると考えられる。しかし、本研究では、家族支援の重要性は強調されたものの、直接女性アルコール依存症者の家族を対象とした相談体制に関するニーズを明らかにできず、さらに女性アルコール依存症者の回復と家族機能との影響について明らかにする等課題を多く残している。

そのため、今後の課題として家族の相談体制についてのニーズを、家族対象に実施すること、また女性アルコール依存症者の回復に関する、家族機能低下の影響を明らかにし、それ以外にも、家族問題に対するストレスがどのように影響するのか、その因果的関連を検討していく。女性アルコール依存症者の家族に対する精神的健康を支援する相談体制のニーズを体系化することを最終的なゴールとし、今後も引き続き調査を実施していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----